



応急処置用簡易シーネ ラ・イ・ス・パック™

一般的名称 成形副木(JMDNコード35354000)
販売名 ライ・ス・パック
一般医療機器届出番号 31B2X00003000001
製造販売元 ファミリーイナダ株式会社

応急処置の入り口にラ・イ・ス・パック

傷病の発生時、もっとも初期に為さなければいけないことは、以下の4つの作業です。

- R (Rest/ 安静)**
- I (Ice/ 冷却)**
- C (Compression/ 圧迫)**
- E (Elevation/ 挙上)**

この4つの作業の頭文字をとって「RICE/ライス」と呼びます。

特に医師の治療を受けるまでの間に、患部を固定措置する事は、傷病部の動揺を防ぎ、新たな傷を増やしたり、悪化を抑えることとなります。

また、この「固定する作業」により痛みが軽減が期待できます。

この「RICE」という言葉は、現在どこの応急処置の講習を受けても、あるいは自動車免許の取得時の授業にも、またスポーツ指導者講習でも普通に使用されている一般的な用語です。同時に世界共通認識の言語でもあります。

ラ・イ・ス・パックは医療機器です。応急処置には最適なツールです。

ラ・イ・ス・パックが必要な時はきっとやってきます

近年、東日本大震災以降その影響も関係して、南海トラフ沿いで懸念されている巨大地震のうち、マグニチュード8・1前後と推定される東南海地震が今後30年間に起きる確率について「70～80%」とされています。地震などの大規模災害に対して、各自治体は災害時備蓄倉庫などにシーネも大量に備蓄しておくべきではないでしょうか？

ラ・イ・ス・パックは限られた倉庫スペースの中に効率的に備蓄が可能です。

また、災害発生時の初期救急処置には多数のシーネが必要だと想定できます。ラ・イ・ス・パックは医療機器であり、最初に救急処置を担われる方々のニーズにも対応できるシーネです。

ラ・イ・ス・パックはどこでも役立つツールです

自然災害に備えるためだけでなく、交通事故、学校行事、あるいは地域スポーツ活動などにおいて、骨折や捻挫などの傷病の発生しうるシチュエーションは数多く想定されます。

そういったアクシデントに対応したツールはどこまで用意されているのでしょうか？

医師の正しい診断を受けるまでに私たちだけでもできることがあります。

ラ・イ・ス・パックは医療機器ですが、さほど専門的な知識を必要とせず、誰でも使えてどこでも役に立つファーストエイドツールです。

ラ・イ・ス・パックはだれでも使える医療機器です

今回開発したシーネは、ダンボールを使用しているため非常に軽く、また、撥水ダンボールを使用しているため、不慮の水漏れや万が一の出血等に対しても耐久性があります。

また、ラ・イ・ス・パックには下記の特徴があります。

- 各部位に応じたシーネを用意し、複数部位を一枚にセットしたパッケージング。
- 簡単に使用できます(専門知識をさほど必要としない)。
使用方法・図解を本体に印刷する事により、簡易に使用可能になります。
- 単体としてのシーネではなく、数種類のシーネを効率的にパッケージングすることにより、僅かなスペースに大量に保存が出来ます。
- 目的、あるいは収納する場所により(たとえば車のトランク)パッケージングを自由に組み合わせることが出来ます。
- 医師の適切な処置を施した後、不要になれば、ダンボールなので燃料などにも転用が出来ます。
- ダンボールなので安価で生産が可能です。

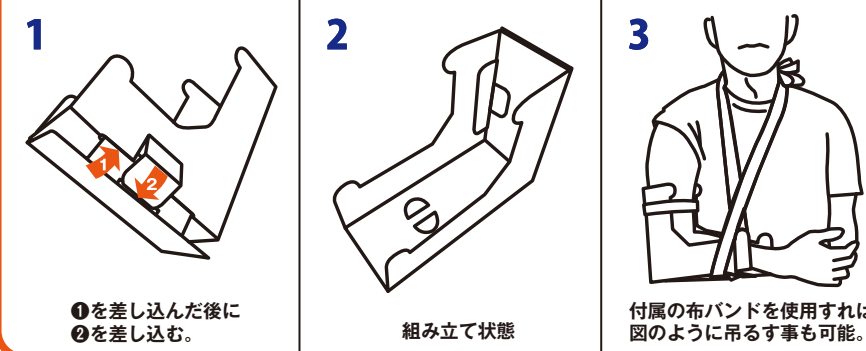
●各部位および付属品の使用方法

足首用 Ankle

アキレス腱断裂の可能性がある場合、足首用を使用せず、アキレス腱用を使用すること。

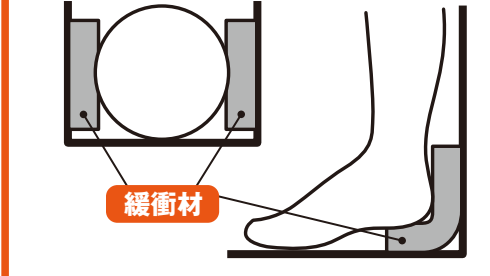


ひじ用 Elbow

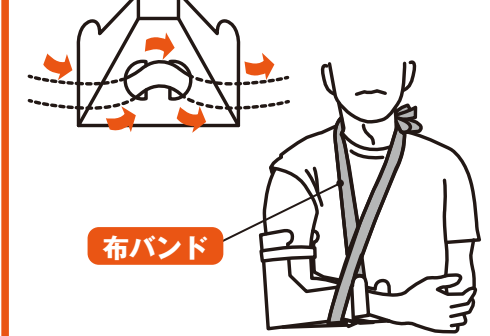


付属品の使い方

本品で患部を固定する際、患部を無理に動かさず緩衝剤を利用して下さい。緩衝材が足りない場合、布や新聞紙などを隙間に詰めると良いでしょう。

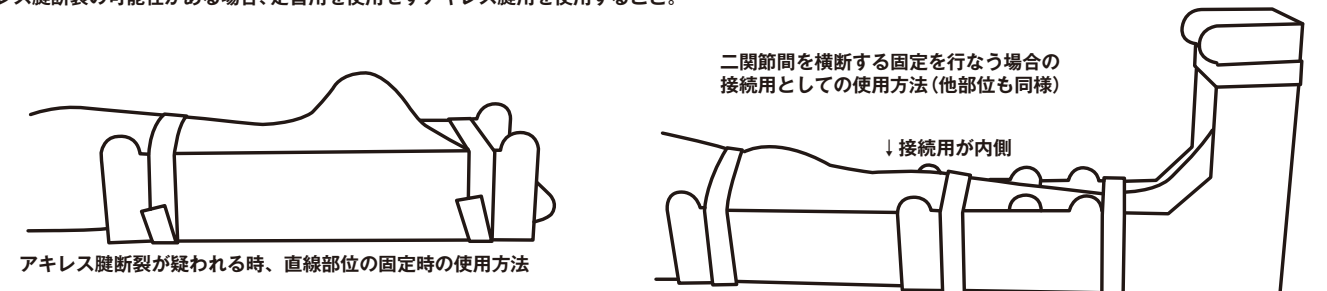


図のように布バンドを穴へ通す。

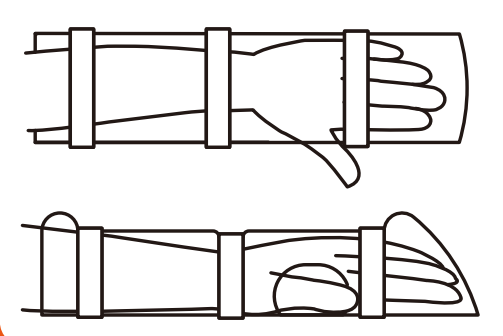


アキレス腱・接続用 Foot&Ankle・Joint Attachment

アキレス腱断裂の可能性がある場合、足首用を使用せずアキレス腱用を使用すること。



手首・指用 Wrist & Hands



くび用 Cervical Collar

本品の装着の際は、頸椎を正しく支持しながら装着する事。また本品の装着によって、呼吸や飲み込みが妨げられたり、下顎、鎖骨、後頭部、肩等に痛みが生じた場合、ただちに使用を中止すること。



- くび用装着時、理想的には介護者に傷病者頭部をしっかり支えてもらい、▲印の上にあごのをせ、慎重に調整して固定することが望ましい。
- 本品付属の緩衝材を使用しても患部が十分に固定されない場合、シーネと体の隙間に布や新聞紙等を丸めて隙間を埋め、密着させることによって、固定を補助すること。
- 固定措置終了後、定期的に患部を観察すること。